

## 2025年度 東洋大学 IRニューズレター Vol.1 (通算第17号)

### 卒業生の満足度・就職 — 経年変化・入学時志望順位別特徴・関連要因 —



東洋大学  
学長・IR室長 矢口悦子

2024年度卒業時アンケート調査では、「大学」「学部・学科」「就職活動・結果」のいずれにおいても、満足度が過去5年間で最も高い水準となりました。とくに「就職活動・結果」は、コロナ禍で大きく落ち込んだ2020年度から継続的に回復し、86.8%に達しています。このような結果に触れ、学生たちがそれぞれの歩みの中で進路を切り拓き、社会へと踏み出している姿が思い浮かび、頼もしさを感じています。

また、「大学に入ってから経験」や「これまで受けた授業」についても、各項目において学生が実際に経験したと回答する割合が全体的に増加しており、「身についた能力」に対する自己評価も上昇しています。これらの結果からは、学生の学びに対する肯定的な実感が高まりつつある様子がうかがえます。

今回は、こうした経年変化に加え、「入学時志望順位別」の分析も行いました。いずれの層でも高い満足度が得られている一方で、第3志望以下ではやや低い傾向も見られました。学生がどのような思いで本学に入学し、どのように4年間を過ごしたのか。そのプロセスへ丁寧に向き合いながら、今後の支援のあり方を検討していく必要があります。

こうした調査結果を活かしながら、学生の声に基づいた学生支援を推進し、今後も継続的な改善と発展に取り組んでまいります。

### 2024年度卒業時アンケート調査概要

**対象:**2024年度3月卒業決定者(学部生)

**実施期間:**卒業決定者発表に合わせキャンパス毎に回答開始(3月末日締切)

- ・朝霞:2025年3月7日(金)開始
- ・白山・赤羽台:2025年3月11日(火)開始
- ・川越:2025年3月15日(土)開始

**回答方法:**Webアンケート(Googleフォーム)

**分析担当:**IR室 教授 劉文君

#### 年度別回答者数/回答率

|         | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 卒業者(人)  | 6,963  | 6,847  | 6,590  | 6,562  | 6,499  |
| 回答者数(人) | 1,365  | 1,415  | 2,154  | 2,306  | 3,229  |
| 回答率(%)  | 19.6   | 20.7   | 32.7   | 35.1   | 49.7   |

#### 分析の目的

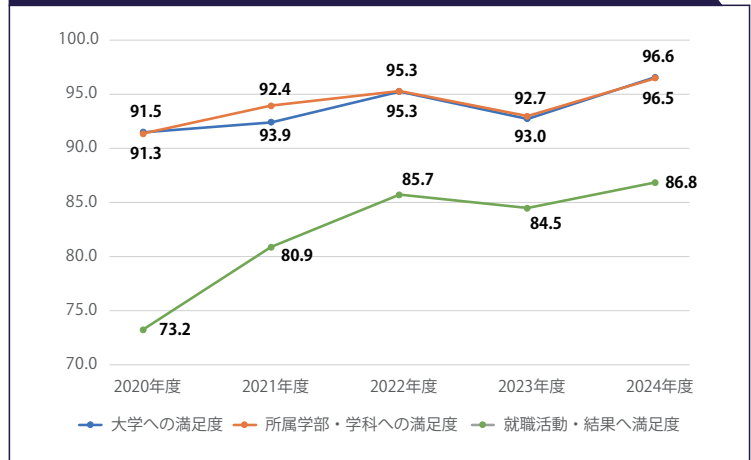
主に、「大学」「学部・学科」「就職活動・結果」のそれぞれの満足度、「大学に入ってから経験」「これまで受けた授業」「身に付けた知識・能力」について昨年度との比較、5年間(2020-2024年度)の推移の傾向を明らかにする。また、入学時志望順位別で、「大学」「学部・学科」「就職活動・結果」の満足度についての差異を分析する。さらに、学部・学科の満足度と「これまで受けた授業」との相関について、全体、及び入学時志望順位での特徴を分析する。上記の分析によって、「大学」「学部・学科」への満足度のさらなる向上に示唆を見出す。

# 1. 全体の経年変化

## ①「大学」「学部・学科」「就職活動・結果」の満足度

図1に示すように、2024年度の卒業生の「大学」「学部・学科」「就職活動・結果」の満足度（〈満足している〉＋〈やや満足している〉）はそれぞれ96.6%、96.5%、86.8%で、いずれも昨年度より高い。また、5年間の各満足度の推移から高い満足度を維持し、とくに、コロナ禍の影響で2020年度に「就職活動・結果の満足度」は73.2%になったが、今年度は86.8%まで上昇してきた。

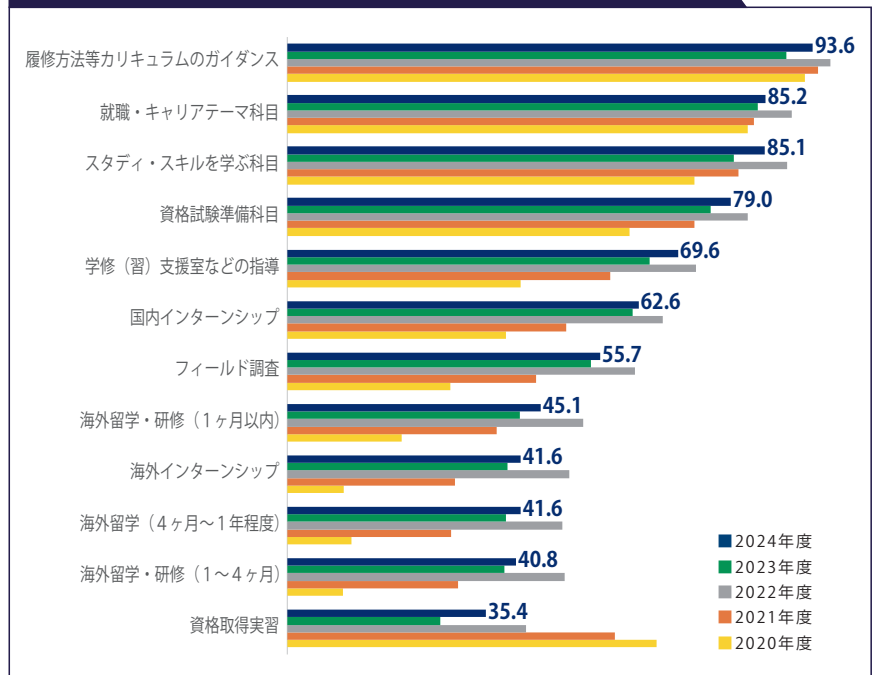
図1 大学、学部・学科、就職活動・結果の満足度（2020-2024年度・%）



## ② 大学に入ってから経験

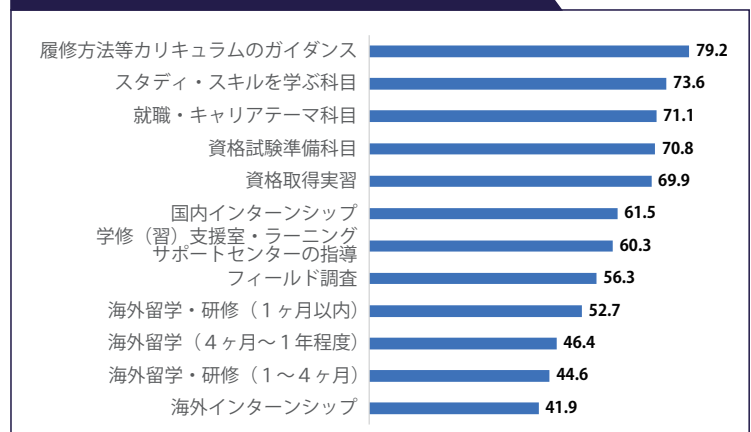
設問「大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、それは有用でしたか。」への回答について、「経験した」の経年変化を見ると（図2）、すべての項目で「経験した」（〈よくあった〉＋〈ある程度あった〉）の割合が昨年度より高い。各項目のうち、「履修方法等カリキュラムのガイダンス」、「就職・キャリアテーマ科目」などを経験した割合が比較的高い。これに対して、海外留学・研修などの割合が比較的低いが、経年的に増加傾向にある。

図2 「経験した」こと（2020-2024年度、2024年度で高い順・%）



また、これらの経験についての評価（〈非常に有用だった〉＋〈有用だった〉）に関しては（図3）、「履修方法等カリキュラムのガイダンス」「スタディ・スキルを学ぶ科目」「就職・キャリアテーマ科目」「資格試験準備科目」などで割合が比較的高い。これに対して、「海外インターンシップ」「海外留学・研修」などの割合が比較的低い。

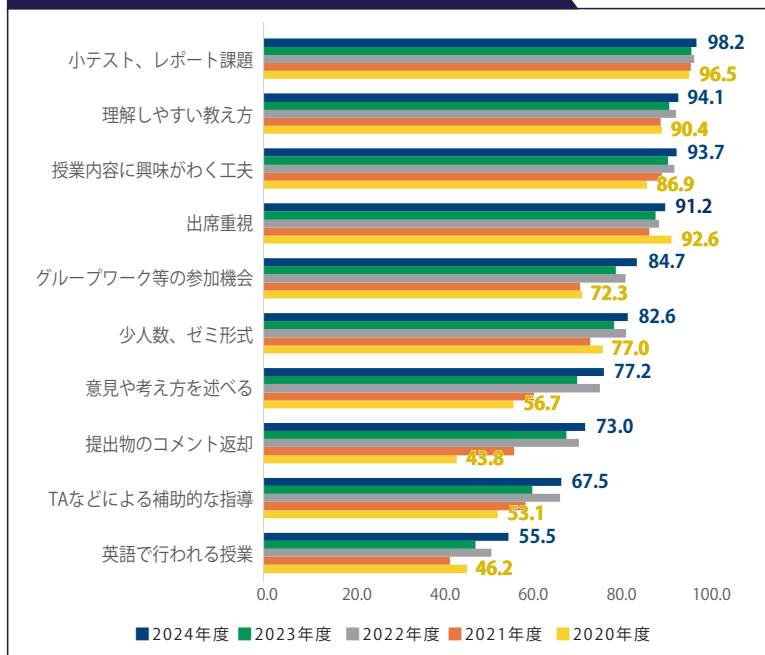
図3 「経験したこと」への評価（2024年度・%）



### ③「これまで受けた」授業と「増やしてほしい」授業

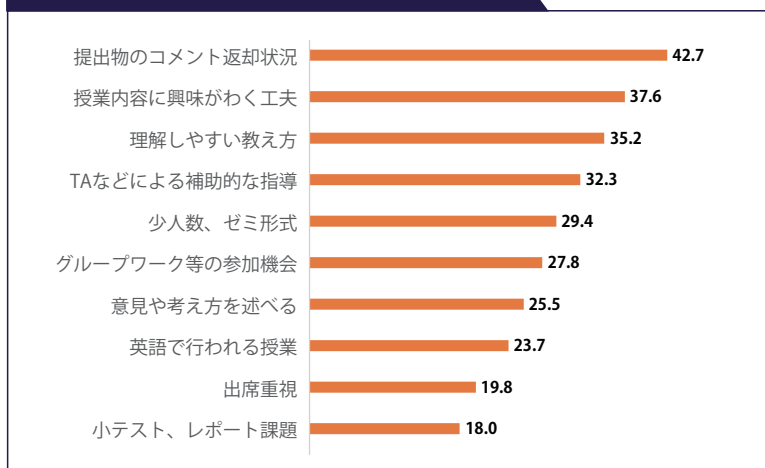
図4は、設問「これまで受けた授業は、次のようなことがどれくらいありましたか。」についての「受けた」（「よくあった」＋「ある程度あった」）と回答した割合を示している。過去5年間の各項目の割合の推移を見ると、「小テスト、レポート課題」などの項目では割合が比較的高いが、大きな変化はない。これに対して、「グループワーク等の参加機会」等の「双方向型授業」が大きく増加した。

図4 「これまで受けた」授業（2020-2024年度）



また、設問「これまで受けた授業は、次のようなことについて、その程度は十分だと思いますか。」についての2024年度の回答を見ると（図5）、「提出物のコメント返却状況」「授業内容に興味がわく工夫」「理解しやすい教え方」などの項目の割合が比較的高い。すなわち、これらの授業は比較的大きく増加したが、さらに「増やしてほしい」と期待している。

図5 「増やしてほしい」授業（2024年度・%）



### ④身に付けた知識・能力

図6 身に付けた知識・能力（自己評価・平均値）

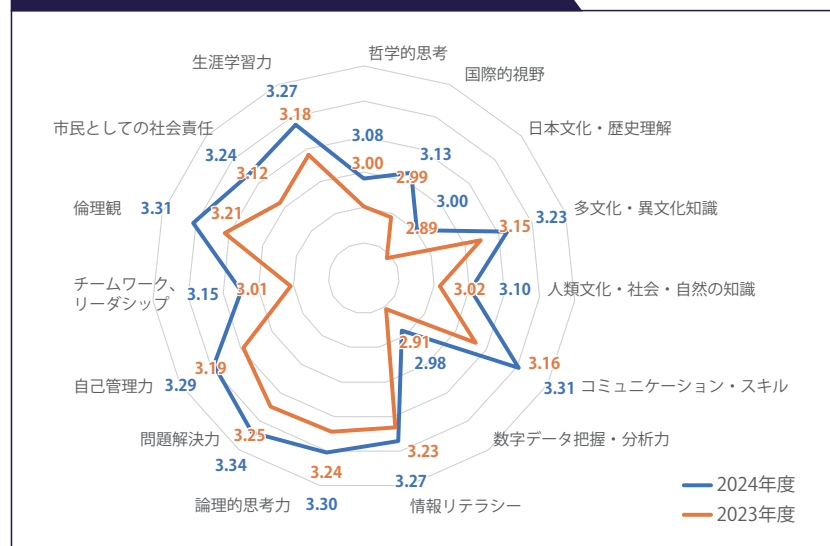


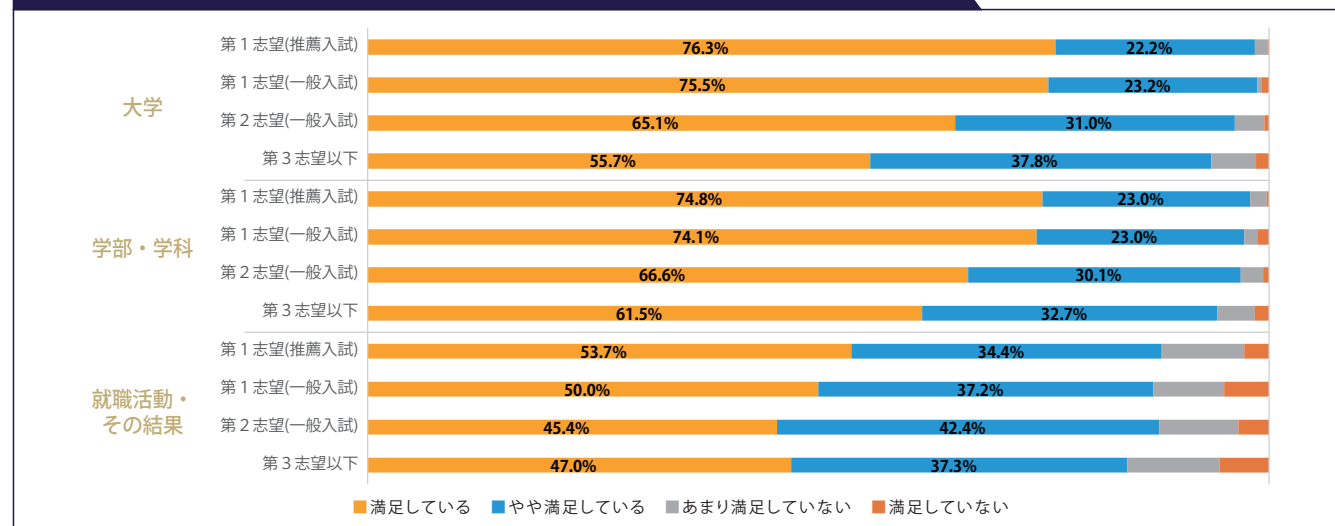
図6は設問「4年間を通じて、以下を身に付けることができましたか。」の回答の平均（「身に付いた」4点、「やや身に付いた」3点、「あまり身に付かなかった」2点、「身に付かなかった」1点）を示している。2024年度の各項目での平均値は2023年度より高いことが分かる。とくに、「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「国際的視野」などの増幅が比較的大きい。

## 2. 入学時志望順位別の差異

### ① 満足度での差異

2024年度の回答者の入学時志望順位の分布は、第1志望(推薦入試)36.3%、第1志望(一般入試)14.8%、第2志望(一般入試)21.3%、第3志望以下27.6%である。入学時志望順位別で、「大学」「学部・学科」「就職活動・その結果」の満足度についての差異を見てみる。図7に示すように、「大学」「学部・学科」についての満足度は、入学時の各志望順位で、満足度(〈満足している〉+〈やや満足している〉)はいずれも9割を超えている。また、「就職活動・その結果」の満足度(〈満足している〉+〈やや満足している〉)もそれぞれ8割を超えている。しかし、詳細に見ると、第3志望以下は3つの満足度について、第2志望(一般入試)は第1志望(推薦入試)、第1志望(一般入試)と比べるとやや低い傾向がみられる。

図7 「大学」「学部・学科」「就職活動・結果」の満足度(2024年度・入学時志望順位別)



### ② 「これまで受けた授業」と学部・学科への満足度との相関

表1が示しているように、「これまで受けた授業」と学部・学科への満足度とは、全体・入学時志望順位別で、いずれも有意な正の相関が見られる。その中の「授業内容に興味がわく工夫」「理解しやすい教え方」は、相関がより強く、「出席重視」は比較的相関が弱い。また、第2志望(一般入試)で、「提出物のコメント返却状況」「意見や考え方を述べる」、第3志望以下で「少人数、ゼミ形式」「意見や考え方を述べる」「グループワーク等の参加機会」「英語で行われる授業」は相関が比較的強いのが特徴である。

表1 学部・学科への満足度と「これまで受けた授業」との相関(入学時志望順位別・2024年度)

|               | 全体     | 第1志望<br>(推薦入試) | 第1志望<br>(一般入試) | 第2志望<br>(一般入試) | 第3志望以下 |
|---------------|--------|----------------|----------------|----------------|--------|
| 授業内容に興味がわく工夫  | .410** | .358**         | .380**         | .433**         | .424** |
| 理解しやすい教え方     | .403** | .312**         | .375**         | .443**         | .440** |
| TAなどによる補助的な指導 | .191** | .149**         | .190**         | .193**         | .177** |
| 出席重視          | .174** | .146**         | .189**         | .135**         | .183** |
| 少人数、ゼミ形式      | .270** | .234**         | .216**         | .185**         | .350** |
| 小テスト、レポート課題   | .234** | .249**         | .285**         | .166**         | .207** |
| 提出物のコメント返却状況  | .235** | .213**         | .235**         | .257**         | .202** |
| 意見や考え方を述べる    | .271** | .240**         | .209**         | .252**         | .299** |
| グループワーク等の参加機会 | .276** | .243**         | .293**         | .232**         | .296** |
| 英語で行われる授業     | .185** | .141**         | .147**         | .170**         | .234** |

## まとめ

2024年度の卒業生は、「大学や学部・学科、就職活動・結果」について、2023年度より満足度が高く、過去5年間の推移を見ても高い水準を維持している。また、「大学に入ってから経験」については、すべての項目で「経験した」と回答した割合が増加しており、多くの経験に対して肯定的な評価が示されている。一方で、海外留学・研修などを経験した割合は比較的低い結果であった。さらに、「これまで受けた授業(形態)」に関しては、「グループワーク等の参加機会」等といった双方向型の授業が比較的大きく増えており、それらの授業を「増やしてほしい」という希望も見られる。加えて、「身に付けた知識・能力」についての自己評価は、すべての項目で2023年度より高く、特に「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「国際的視野」の伸びが大きい。一方、「入学時の志望順位別に見ると、大学、学部・学科、就職活動・結果」について、全般的に満足度は高いが、第3志望以下ではやや低い傾向にある。また、「学部・学科への満足度」と「これまで受けた授業」との相関については、全体・入学時志望順位別で、いずれも有意な正の相関が見られる。加えて、具体的な項目では、入学時志望順位別での相関の強さに差も見られる。